

日本新生児成育医学会 2024年度 第2回理事会 議事録

日時：2024年5月16日（木）18：00～20：30

形式：Web会議システム Zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、諫山哲哉、落合正行、影山 操、河野由美、日下 隆、
佐藤義朗、東海林宏道、長 和俊、徳久琢也、中西秀彦、難波文彦、飛弾麻里子、
細野茂春、水野克己、森岡一朗、芳本誠司、和田和子（各理事）
与田仁志（監事）、荒堀仁美、北東 功、山田恭聖（各幹事）

欠席者：長谷川久弥、廣間武彦（各理事）、中村友彦（監事）

（敬称略）

議 事：

議事に先立ち、高橋理事長より定款41条に則り、出席者が開催可能人数に達しており、理事会が成立する旨説明があった。

1. 理事長報告

1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは2件、その他のお知らせなどは2件であった。

2) 2024年度会計途中経過報告の件

10～3月分までの会費納入状況について、今年度は選挙があるため、例年より年会費の納入が順調に推移している。

3) 非医師入会の件

臨床工学技士の方より入会申込があった。

4) 『小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン2021』印税の件

株式会社協和企画より『小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン2021』の2023年4月1日～2024年3月31日までの著作権使用料として、122,573円（日本小児呼吸器学会と折半）が5月10日に振込まれた。

5) メテオ社より転載許諾使用料の件

メテオ社より日本新生児成育医学会雑誌の転載許諾使用料として4,372円が5月末に振込まれる。

6) 小児栄養分野推進合同協議会（旧小児専門管理栄養士制度合同協議会）より委員派遣依頼の件

小児栄養分野推進合同協議会より本学会からの委員派遣依頼があり、引き続き東海林宏道理事に依頼することとした。

7) 第71回学術集会大会長立候補の件

会場の予約が年々難しくなっていることから、第71回学術集会（2027年）大会長の立候補は7月31日（水）を締切とする。立候補者は提案書を事務局へ提出し、次回理事会で大会長を選出する。

8) 日本小児科学会 分科会推薦総説の件

日本小児科学会より分科会推薦総説募集の案内があった。5月27日（月）を締切に募集している。前年度、本学会より推薦した小田 新先生（長野県立こども病院）の総説データが届いたため、共有する。

9) 日本小児科学会より学術集会プログラムアンケート依頼

日本小児科学会より2025年4月18日（金）～20日（日）開催の「第128回日本小児科学会学術集会（名古屋）」プログラム作成にあたり、本会からの提案・助言の依頼があった。5月22日（水）を締切とし、募集している。

10) 日本母乳の会より後援依頼の件

日本母乳の会より2024年8月開催「第32回母乳育児シンポジウム」の名義後援依頼があり、例年後援しているため、今年も了承した。

11) 日本小児循環器学会より「小児心不全薬物治療ガイドライン改訂版2024」作成協力依頼の件

日本小児循環器学会より「小児心不全薬物治療ガイドライン改訂版2024」作成にあたり本学会より豊島勝昭先生に参加いただきたいと要望があった。豊島先生に了承を得て、参加いただくこととした。

12) 学術集会優秀演題賞選出の件

2024年度第1回理事会で「学術集会優秀演題(仮)」を選出することが決定した。

選出方法として抄録からプログラム委員会が10題ほど選出することとした。選考にあたり、分野・施設が偏らないようにする、利益相反を確認する、また出来るだけ若手を選考するように配慮することとした。社員総会の最後に論文賞などと共に賞状と記念品を授与し、記念品は大会長が準備することとなった。

13) 理事長職務報告

通信理事会の発信、問合せ対応を行った。

2. 審議事項

第1号議案 第67回学術集会収支報告の件(細野理事)

第67回学術集会収支について大会長の細野理事より報告があった。参加者は1,000名を超え、学術集会の収支は補助金を返還しても収益があり、賛成1/2以上で承認可決された。

高橋理事長より、コロナ禍であったが黒字会計となったことに感謝の言葉があった。

第2号議案 学術集会講演録の学会誌掲載の件(高橋理事長)

2024年度第1回理事会で第68回学術集会より講演録の執筆を一律に依頼するのではなく、検討した上で講演録として残す演題を選出することが決まった。

会長講演、招請講演、教育講演についてはこれまで通り、執筆依頼をする。シンポジウム、ワークショップ、合同シンポジウムについては事務局より各座長宛に、講演録を執筆することを希望するか確認し、希望された際は執筆いただくことが賛成1/2以上で承認可決された。

第3号議案 仁志田博司賞の件(高橋理事長)

2023年12月の献花式で集まった寄附金において、剰余金が発生した。その有効な使用方法を検討してきた結果、本学会に寄附し、仁志田博司賞を設け、「赤ちゃんに愛を育む活動」をした個人ないし団体に授与したいと提案があった。

剰余金は70万円。毎年10万円を副賞として使用し、2024年11月～2031年10月までの7年間、社員総会で賞状と共に授与することが賛成1/2以上で承認可決された。

第4号議案 オープンアクセスの論文掲載費の件(高橋理事長)

オープンアクセスの論文掲載には数十万円の経費が必要となる。一つ認めて、その後、全ての論文掲載費用を学会負担とすると、学会の財政を圧迫するため、対応について検討した。

今年度、慢性期iNO保険収載WGの論文掲載費として50万円の予算を設けていたが、すでに支払い金額は予算を越えている。

今回、WGから掲載した論文には本学会名が記載されていないことから、個人名で投稿するのであれば、個人の業績となるため学会が負担する必要はないと意見があった。また、上限は必要だが、学会名を明記するのであれば研究の活性化にもつながるため、補助してもいいのではないかと意見もあった。

オープンアクセスへの掲載が学会として必要であると判断した際は経費として支出することとし、事前に理事会に諮ることが賛成1/2以上で承認可決された。

第5号議案 保育器内のアルコール濃度上昇、児の血中アルコール検出に関する筑波大学の論文の件(影山理事)

医療安全委員会で協議し、2023年5月1日付で「理事会からのお知らせ」として学会員に周知した件について、執筆者から追加の相談・提案があった。

1) 新生児のアルコール曝露、ならびに予防策（ABD-PRAC）がどの程度周知されているのか、アンケート調査実施の是非。

2) アルコール曝露に有効な予防策（論文中にある ABD-PRAC）啓発実施の是非。

3) 調査・啓発の主体はどこにすべきか（執筆者、本学会、その他）に関する、学会としての意見・考え。和田理事より日本小児科学会にも同様の依頼があったことが報告された。論文を発表した筑波大学で、啓発やアンケートを実施し、それらに対して本学会が支援する形がよいのではないかと意見があった。また筑波大学でプレスリリースを出してはどうか、と提案があった。

筑波大学から協力依頼があった際は検討の上、協力することが賛成1/2以上で承認可決された。

第6号議案 委員会の統廃合の件（高橋理事長）

前回の理事会で委員会統廃合の提案があった。（ ）内は現委員長。

- ・総務委員会（和田和子）
- ・学会将来構想委員会（日下 隆）
- ・男女共同参画推進委員会（河野由美）→名称変更を検討
- ・広報委員会（水野克己）
- ・災害対策委員会（徳久琢也）→名称変更を検討
- ・国際渉外委員会（難波文彦）
- ・学会誌編集委員会（東海林宏道）
- ・教育委員会（中西秀彦）
- ・学術委員会（長谷川久弥）
- ・医療安全委員会（影山 操）
- ・産科医療補償制度対応委員会（細野茂春）→廃止
- ・倫理委員会（飛弾麻里子）
- ・利益相反委員会（廣間武彦）→総務委員会に統合予定だったが、残す
- ・感染対策予防接種委員会（森岡一朗）
- ・診療委員会（芳本誠司）
- ・社会保険委員会（佐藤義朗）
- ・薬事委員会（落合正行）
- ・医療の標準化委員会（諫山哲哉）
- ・医療の質向上委員会（長 和俊）
- ・調査研究審査委員会（飛弾麻里子）→倫理委員会に統合
- ・フォローアップ認定医制度委員会（河野由美）
- ・用語委員会（細野茂春）
- ・英文誌 WG（森岡一朗）
- ・慢性期 iNO 保険収載 WG（中西秀彦）
- ・病気・ケアの解説作成 WG（水野克己・中西秀彦・諫山哲哉・細野茂春）
- ・新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG（中西秀彦・諫山哲哉）

上記提案が賛成1/2以上で承認可決された。2025年度より委員会が20、WGが4となる。

第7号議案 理事の緊急連絡網の件（高橋理事長・徳久理事）

第1回理事会で審議した理事の緊急連絡網の作成について、緊急時の連絡方法として様々な連絡ツールがあるが、平時でも利用している理事のメーリングリストを活用することとした。

【緊急連絡網の目的】

- 本学会として、発災後の行動目標を設定できるよう理事会で情報を共有する
- 災害時の対応は、発災直後ではなく急性期を過ぎた以降のサポートを想定
- DMAT、災害時小児周産期リエゾンとの連携（情報共有）

【緊急連絡網の利用手順】

災害発災後

1. 災害対策委員会で情報収集し、それを適宜理事会 ML で共有する。
2. 災害関連メールを発出する場合はメールの件名冒頭に「災害」を入れる。
3. 災害対策委員会以外の理事が情報を得た場合も理事会 ML へ件名冒頭に「災害」を入れて投稿。
4. 災害対策委員会でクロノロジーを作成（1回/日）し、理事会 ML で共有。
5. 必要に応じて臨時の理事会招集。

上記対応について賛成 1/2 以上で承認可決された。

第8号議案 非会員講演料の件（中西理事）

現在、非会員に講演いただいた際の講演料は一律の金額となっている。

教育委員会の活動内容から、宿泊を伴って参加する非会員の講師もあり、講演料の改定について提案があった。

各理事より様々な意見があり、高橋理事長と中西理事で検討の上、次回の理事会で再度審議することとした。

第9号議案 こども家庭科研研究班への研究協力の件（高橋理事長）

こども家庭科研研究班 研究代表者 永光信一郎先生より、母子保健医療対策総合支援事業（令和5年度補正予算分）にて、1か月児・5歳児健診の補助事業が開始され、令和5年度に5歳児健診マニュアルを制作し、令和6年度に1か月児健診マニュアルを制作する予定であり、本マニュアルを制作するうえで、研究協力者を推薦して欲しいと依頼があった。研究班からは和田雅樹先生の協力を希望されており、本学会から和田雅樹先生を推薦することが賛成 1/2 以上で承認可決された。

第10号議案 国内移動における交通費の件（難波理事）

海外の学術集会等に本学会から参加するにあたり、相手国から渡航費、現地の交通費、宿泊費が支給されるが、国内の移動にかかる交通費について学会から支給されないか問合せがあった。

これまで海外の学術集会参加にかかる国内移動の交通費支給について依頼がなかったが、本学会が推薦して派遣する演者であり、旅費支給規程に則り支給することが賛成 1/2 以上で承認可決された。ただし支給は要望があり、理事会で検討した上での判断とする。

3. 第68回学術集会（中村会長・代 高橋理事長）

2024年11月8日（金）～10日（日）、ホテルブエナビスタ（長野県松本市）

第33回日本新生児看護学会：11月9日（土）～10日（日）

テーマ「Family centered care のこれから」

演題登録期間は5月9日（木）～6月16日（日）

筆頭演者が医学部学生（大学院生を除く）の場合は、責任者が会員であれば会員登録せずに演題登録可能（前年度理事会で決定）。

社員総会は11月9日（土）15時40分受付開始、ホテルブエナビスタ第1会場で開催。

11月9日（土）18時30分より第2・第3会場にて日本新生児成育医学会・日本新生児看護学会・Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatology 合同懇親会を開催。

11月7日～10日の夜、11月17日の世界早産児デーに向けて松本城をライトアップする。是非ご訪問ください。

4. 第69回学術集会（高橋会長）

2025年11月13日（木）～15日（土）、パシフィコ横浜 会議センター

第34回日本新生児看護学会は11月14日（金）～15日（土）

テーマは「激動の社会の中の新生児医療（仮）」

5. 第70回学術集会（森岡会長）

2026年11月20日（金）～22日（日）、パシフィコ横浜 ノース

6. 各種委員会報告

1. 学術委員会（長谷川委員長・代 高橋理事長）

1) 2023年度学術奨励賞受賞論文および受賞者は、選考の結果、『Impact of hydrogen gas inhalation during therapeutic hypothermia on cerebral hemodynamics and oxygenation in the asphyxiated piglet』中村信嗣先生（香川大学医学部小児科）に決定した。追って、学会論文賞を選考する。

2. 病気・ケアの解説作成WG（長谷部WG委員長・代 水野理事）

1) 解説文を作成する先生を公募し、74名の先生から応募があった。今後、担当領域を振り分けていく。

3. 広報委員会（水野委員長）

1) 編集委員会と合同委員会を開催し、学会誌へのアクセスを増やすための方策を検討した。

2) Xにて施設紹介ならびに学術集会・セミナーの告知を行っており、周産期関連のセミナーについては学会ホームページに掲載している。

4. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) IPOKRATES JAPAN について

・開催時期：2025年10月16日（木）～18日（土）の3日間

・開催場所：ウェスタ川越（埼玉県川越市）

2) 日台韓 joint congress について

会 合：The 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatology

日 時：2024年11月9日（土）（第68回学術集会2日目）

会 場：ホテルブエナビスタ（長野県松本市）150名規模会場

テーマ：22～23週の管理

講演者：Ming-Chih Lin（台湾）、Ga Won Jeon（韓国）、Johan Ågren（スウェーデン）、

Matthew A. Rysavy（米国）、演者未定（日本）

MOU締結：San-Nan Yang（台湾）、Min Soo Park（韓国）、高橋尚人（日本）

司会：岩見裕子委員

3) 31st Annual Spring Meeting of the KSN（5月17日開催：Daegu, Korea）から講演依頼があり、委員会内で募集した結果、中村信嗣先生にお願いすることとした。

演題名：『Prospects for a new treatment strategy with hydrogen gas inhalation for neonatal asphyxia』

4) 日本小児科学会より案内があった Asia Pacific Pediatric Association (APPA) Outstanding Asian Pediatrician Award の発表者を会員から募集し、委員会で選考の上で本学会から1名推薦したが、選出されなかった。

5. フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）

1) 暫定認定医の審査方法

2024年3月18日（月）に委員会を開催し、審査方法について検討した。

会員より申請に関する問い合わせがあり、重複する問い合わせについては回答を学会ホームページに掲載

載した。また、症例要約の審査項目も掲載した。

2) E-learning サイトの運用状況

2024年4月末時点で363名が4講義の受講とテストを終了し、修了証を発行済である。

3) 暫定認定の申請受付

5月1日(水)より受付を開始した。予定より多い申請があった際は審査期間を延長することを検討している。

6. 男女共同参画推進委員会(河野委員長)

1) 2024年2月29日(木)に委員会を開催し、代議員選挙における女性立候補の促進について検討、実行した結果、代議員選挙の立候補者は282名、男性:209名、女性:73名であり、目標としていた女性代議員立候補者62名を上回った。

2) 委員会名について、「ダイバーシティ」あるいは「DEI」の用語を用いる方向で、委員会の統合案を踏まえて検討を継続する。

7. 医療安全委員会(影山委員長)

1) 第68回学術集会における本委員会企画の教育講演について協議し、その概要を大会長に報告し、承諾を得た。

8. 感染対策予防接種委員会(森岡委員長)

1) 日本小児科学会の「日本におけるRSウイルス感染症に対する抗体製剤・ワクチンの使用に関するコンセンサスガイドライン」検討ワーキンググループ委員に、感染対策予防接種委員会より森岡一朗委員長と野崎昌俊委員が推薦された(後日、森岡委員長をWGの委員長として選任)。日本小児科学会は妊婦RSウイルスワクチンのステートメントを公表し、パリビズマブ適応追加やニルセビマブのコンセンサスガイドラインを作成中である。

2) 「日本のNICUでのパレコウイルス感染症の院内発症の全国調査」について、本学会の委員会企画として通信理事会で承認された。調査票を完成させ、新潟大学医学部の倫理委員会での承認を得て、全国調査を開始する予定である。

3) トキソプラズマIgG抗体アビディティー(IgG Avidity)検査の早期承認の要望書提出について、通信理事会で承認を得て、関連6団体と連名で2024年1月に厚生労働省へ提出した。

4) 本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について(第6版)」の改訂について検討したが見送ることとした。

緩和するガイドラインを作成しないのかと問い合わせもあり検討したが、施設によって対応が大きく異なるため、新たなガイドラインを出すことは難しいとの判断となった。

長理事より、このようなガイドラインは緩和することは難しく、ガイドラインとして残しておくのではなく、アーカイブ化してはどうかとの提案があり、委員会で検討することとした。

9. 教育委員会(中西委員長)

1) 第10回医学生・研修医向けNICU入門セミナー(実行委員長:齋藤朋子委員)

2024年3月29日(金)から参加申込受付開始

日時:2024年6月22日(土)13:00~18:30

形式:Web(Zoom)

定員:約50名

参加費:学生・会員:無料、非会員:2,200円(税込)

申込締切:2024年5月20日(月)

2) 第27回教育セミナー(実行委員長:寺澤大祐委員、実行委員:杉浦崇浩委員)

日時:2024年8月24日(土)~8月26日(月)

会 場：ホテルグランヴェール岐山（岐阜県岐阜市）

参加費：未定

- 3) 第6回 web セミナー（実行委員長：鷺尾洋介委員、実行委員：寺澤大祐委員）

日 時：2024年6月5日 18:00～19:30 開催予定

テーマ：プロジェクトN、NICU退院後の医療について

大木 茂先生、網塚貴介先生、南條浩輝先生、荒木俊介先生の講演後、ディスカッションを予定している。

- 4) 第68回学術集會に教育委員会企画案申請

テーマ：意外と教えられていない??～エキスパートから学ぶ学会プレゼンテーションの極意

座 長：杉浦崇浩委員、中西秀彦委員長

委員会企画の申請が承認されれば、演者交渉予定である。

10. 慢性期 iNO 保険収載 WG（中西委員長）

- 1) 急性期以降 iNO 臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコーピングレビュー

①以下のスコーピングレビュープロトコル論文がアクセプトされた。

Minamitani Y, et al. Inhaled nitric oxide therapy for preterm infants after 7 days of age: A scoping review protocol. BMJ Open 2024 Vol. 14 Issue 2 Pages e080298

②研究担当者：加藤 晋先生により、本題のレビュー論文を投稿中である。

Kato S, et al. Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants after 7 days of age. BMJ Open

- 2) 慢性期 iNO の本邦の NICU における実態調査アンケート案の作成と実施

宮田昌史委員がアンケート結果に関する論文を作成中である。

- 3) マリンクロット社との面談

2024年3月6日（水）に面談し、活動内容を共有した。

PMDA との事前話し合いに向けて、今後も情報共有予定である。

11. 新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG（甘利 WG 委員長・代 中西理事）

- 1) 不定期に WG 全体、WG 内の小グループごとに Zoom ミーティングを行った。2024年2月以降、全体で1回、小グループで8回（3グループで、2～3回ずつ）行っている。

- 2) シミュレーショントレーニングプログラムを制作中である。

「臍帯カテーテル留置」「病状説明」は制作済み。

「気管挿管」「急変対応」「胸腔穿刺」については制作中。

- 3) 今後の予定

①第60回日本周産期・新生児医学会学術集會時に「第2回 NSim セミナー」開催

会 期：2024年7月15日（月・祝日）、学術集會閉会后17時頃開始予定。

会 場：NSE 梅田 A 会議室（大阪市北区曾根崎 2-5-10 梅田パシフィックビル 5 階）

プログラム：「気管挿管」「急変対応」「胸腔穿刺」を予定。

受講者と、指導者補佐の募集を近日中に開始。

②第68回学術集會時「第3回 NSim セミナー」開催

学術集會プログラム内で開催する。日時、会場等は学術集會事務局と相談中。

時間・会場の広さに応じて「臍帯カテーテル留置」「病状説明」「気管挿管」「急変対応」「胸腔穿刺」の中からプログラムを決定する。

①、②を踏まえて制作したプログラムを修正し、最終的に「シミュレーショントレーニングマニュアル」として整理する。

12. 学会誌編集委員会（東海林委員長）

- 1) 2024年3月29日（金）に2024年度第1回広報委員会・学会誌編集委員会合同委員会を10:00～開催した。学会誌の閲覧数を上げる方法について検討し、いくつかの案があがった。また、2024年度第2回編集委員会を2024年5月9日（木）19:00～開催し、以下の案を実施することとした。
 - 学会誌発刊時に特集各論文のタイトル、執筆者がわかるデータを添付する。
 - 学会の公式X発信時に特集の巻頭言を添付する。
 - 若者向けにQRコードを作成する。
 - ダウンロードを各論文単位ではなく特集単位で閲覧できるようにする。
- 2) 日本新生児成育医学会雑誌36巻2号の刊行
6月発刊の学会誌の特集企画について、作業を進めている。

13. 薬事委員会

- 1) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼があった。
05疑3631、05疑3432 該当なし
- 2) 「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」を募集したが情報はなかった。
- 3) 「医療用薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」を行ったが、情報はなかった。
- 4) 日本小児科学会薬事委員会は協和発酵キリン株式会社よりヒトエリスロポエチン製剤 エポエチンアルファ（遺伝子組換え）製剤「エスポー[®]注射液750」販売中止検討依頼があり、本学会薬事委員としてオブザーバー参加した。
代替医薬品が入手可能であり、本医薬品の販売が中止されても対応可能であると回答した。

14. 医療の質向上委員会（長委員長）

- 1) サーベイランス事業：「気管切開を要した慢性肺疾患」（予定調査期間：2024年4月～2026年3月31日）が新規疾患として開始した。
- 2) フォローアップ事業：「低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究」（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 河野班）が進行中である。

15. 倫理委員会（飛弾委員長）

- 1) 第68回学術集会企画について検討中である。

16. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

- 1) 慢性肺疾患（CLD）の診療ガイドラインに関しては、追加CQに関するレビューを進めており、今年夏～秋ごろに第二弾の推奨案が完成予定である。
- 2) 動脈管開存症（PDA）の診療ガイドラインに関しては、今年度中に推奨案を決定し、夏～秋頃にガイドラインとして公表できればと考えている。
- 3) 薬剤師を中心とした薬剤班による薬剤ガイドラインを作成しており、今年の夏～秋頃に第一弾が完成して学会ホームページで公開予定である。
- 4) 厚生労働科学研究 河野班で行っているフォローアップガイドラインのための早産児の長期予後のアンブレラレビューは、これから文献検索を開始するところである。
- 5) CLDガイドライン、PDAガイドラインの目星がつく夏頃から、早産児の栄養のガイドラインの作成メンバー募集を開始する予定である。
- 6) 広報委員会・教育委員会・医療の標準化委員会・用語委員会共同の「病気・ケアの解説作成WG」も作業が進んでいる（詳細は水野理事より報告）。
- 7) 教育委員会・医療の標準化委員会の共同の「新生児シミュレーショントレーニング普及推進WG」も問題なく進めている（詳細は中西理事から報告）。

17. 社会保険委員会（佐藤委員長）

1) 令和6年度診療報酬改定

本学会より提案した3項目は以下の結果であった。

D 検査 アルブミン非結合型ビリルビン → 要望通り反映された。

A 基本診療料 第2部 入院料等 重症新生児対応体制強化加算 → 一部要望が反映された。

A 基本診療料 第2部 入院料等 ハイリスク児成育支援料 → 全く反映されず。

18. 災害対策委員会（徳久委員長）

1) 2024年3月10日に開催された「周産期・小児医療提供体制に関する研究」第2回分班会議に出席した。

19. 学会将来構想委員会（日下委員長）

1) 日本臨床工学技士会より本学会と共同で、認定資格を作りたいとの要望があった。次回の理事会で詳細について説明する予定である。

20. 利益相反委員会（廣間委員長）

特になし

21. 診療委員会（芳本委員長）

特になし

22. 総務委員会（和田委員長）

特になし

23. 調査研究審査委員会（飛弾委員長）

特になし

24. 産科医療補償制度委員会（細野委員長）

特になし

25. 用語委員会（細野委員長）

特になし

26. 英文誌WG（森岡WG委員長）

特になし

7. その他

- 次回理事会は8月上旬に開催する。
- 通信理事会は理事全員の投票が必要となり、期日は1週間となる。期日を遵守して欲しい。
- 委員会活動などで、学会の経費で支払う必要のある領収書については学会名で発行する必要がある。
- 次回理事会では2025年度の収支予算を提出することとなる。各委員長はそれまでに予算の提出が必要となる。